

日本の訓練／検定協力の取組等を少しでも多くの方にご理解いただくために、J-Skills Newsを発行します。

「テクノインストラクター ～技で未来を切り開く～」

職業訓練指導員の統一的な「愛称・キャッチコピー」を決定しました！

厚生労働省は、「ハートレーニング ～急がば学べ～」(公的職業訓練)などの指導員である「職業訓練指導員※」の愛称・キャッチコピーを「テクノインストラクター ～技で未来を切り開く～」に決定しました。

職業訓練指導員(以下「指導員」といいます。)の愛称・キャッチコピーの募集は、全国からの応募総数557件(愛称:338件、キャッチコピー:219件)の中から、最終審査の上決定しました。また、決定した愛称・キャッチコピーは、今後、行政として利活用するほか、指導員の仕事の魅力紹介などの際に利活用することを通じて、指導員の認知度向上などのために役立てていきます。

※ [ハートレーニング\(公的職業訓練\)](#)などで、就職やスキルアップなどに必要な技能や技術の指導や就職支援などを行う指導員です。 ※詳細は[こちら<厚生労働省HP>](#)をご覧ください。



旋盤2級・指導員
対象訓練方法研修



日本は2023年開催の第47回技能五輪国際大会の開催地に立候補します！

JICA専門家活動レポート

SESPP事業では、海外で活動するJICA専門家の協力を得て、現地研修等を実施しています。このたび、ベトナムに駐在する内野 智裕氏の本事業の研修内容をレポートして頂きました。

■ 日系企業と連携した機械検査2級・3級トライアル・評価者認定を実施

2017年10月10日(火)～13日(金)に「機械検査2級・3級トライアル及び評価者認定」がエバラ・ベトナム・ポンプ社(ハイズオン省)を会場に実施されました。「機械検査2級トライアル」はベトナムでは3回目の実施になりますが、初めて合格者が出ました。ベトナムでは、日本の学科試験問題、実技試験問題及び採点基準に準拠してトライアルを実施しています。特に機械検査2級の実技試験には計画立案等作業試験もあるので、合格するのが難しい中2名の合格者が出ました。併せて、評価者認定に6名が挑戦しました。今後、機械検査職種の評価者が誕生すれば、機械検査職種技能検定の自立的な実施に大きく貢献してくれると期待しています。

■ 旋盤3級トライアル研修

2017年12月11日(月)～16日(土)に旋盤3級トライアル及び評価者講習が、ホーチミン技術職業短大で実施されました。ベトナム南部地域でのトライアルの実施は2年半ぶり、当初の定員12名を大幅に上回る33名の応募が日系企業からありました。このため、日程を再調整して定員を増やし、最終的に15名が受検し、学科試験合格13名(前回に比べて合格率5.4ポイントアップ)、実技試験合格10名(同22.9ポイントアップ)、最終合格8名(同9.5ポイントアップ)という結果でした。受検者も事前の練習を行って受検したことが窺えます。今回のトライアルで南部地域での検定ニーズが極めて高いことがよくわかりました。



機械検査2級・実技試験



旋盤3級トライアル研修・
採点・評価の様子

「技能評価システム移転促進事業（SESPP）」では、日本式の技能検定のノウハウを移転することを目的として、日本国内及び対象国において各種研修等を実施しています。

□研修レポート

インドで技能検定マインドセットセミナーを初めて実施！！

SESPP事務局では、インド側からの要望に応え、より効果的な事業執行を目的として、2017年12月11日(9:30~12:30) インド（デリー）でのマインドセットセミナーを実施いたしました。

3人の方々にご登壇いただき、それぞれ日本のものづくりについてご講演いただきました。

まず初めに、ジェイテクト高等学園の熊谷学園長から「日本の技能検定制度」について、ものづくりには様々な知識が必要であり、作業者のおもいが大切であること、技能五輪の位置づけなどをお話いただきました。

続いて、インド日本商工会の河野事務局長に「THE SPIRIT OF JAPANESE “MONOZUKURI”」について講演いただきました。日本人のものづくりへの拘りについて、日本全国に展開する新幹線の例や食品用ラップフィルムの実演を交えながら熱く語っていただきました。

3番目には、パソナインドシアのリトゥ・コーチャル・ミシュラ講師による「ソフトスキルセミナー」を実施いたしました。日本の働く文化について、「日本人の働くマインド」、「集団で働くことの大切さ」、「コミュニケーションのツールとしての報連相」、「改善・5S」といったトピックについて、それぞれ講演しました。また、折り紙を用いて、小グループに分かれグループ内で工程を分けて順番に折り紙で2艘ボートを折っていくというアクティビティを実施いたしました。

セミナー参加者からは

「技能評価体制についての説明。わが社でも、同じもの作ってみようと思う。」

「“ものづくり”は成長するのにとても大切だと理解した。5S,改善も理解する事が重要です。」

「今回のセミナーから学んだ知識と経験は仕事に対してのマインドセットに役に立つ。それは私の組織だけでなく私の個人や個人の成長に役にたつ。」

など多くの感想をいただき、参加者37名で大盛況のセミナーとなりました。



□研修生レポート

「開発途上国における在職職業訓練指導員の能力向上事業」

■事業概要と目的

本事業は、開発途上国から在職職業訓練指導員を我が国に1年程度受け入れ、母国で中核的役割を果たすことのできる高度で専門的な能力を身につけさせることを目的に実施されています。

■研修生レポート

第4期生（2017年4月～2018年3月研修）のレポート



左から、ソピンさん(カンボジア)、アグスさん(インドネシア)、アズミルさん(マレーシア)

○Mr. Srey Sophyn (ソピンさん : カンボジア)

カンボジアの指導員養成にまだ存在しない指導力科目として、職業能力開発制度、キャリアデザイン、施設外訓練支援論、人材育成支援、受講支援法等を学びました。これらの科目は、指導員養成に欠かせない指導知識のため、指導員養成に導入すれば、カンボジアの職業訓練の問題を改善できるかもしれません。特に生産品質管理、統計品質管理、企業開発マネジメント特論、工場見学等によって、工場の経営管理等を良く理解することができました。これらは企業に必要な知識なので、訓練カリキュラムに導入して3年生に教えたいと思います。私の弱点であったメカトロニクス職種に関する実技科目については、本研修で空気・油圧制御、PLC、マイコンを十分に実習しましたので、自分の実技を向上させることができました。これらの実技は工場現場に求められていますので、機械系の訓練生に教えなければならないと感じています。

本研修は、指導力に関する新しい知識を取得できたこと、以前に学んだ指導ツールもより深く理解できたこと、専門科の実技も十分に実習できたことの3点において良かったと思います。

○Mr. Syamsul Azmirullah Bin Mohd Diah (アズミルさん : マレーシア)

マレーシアは発展している国であり、第四次生産革命Industry 4.0の取り組みにおいて、国際的な競争力を高めるため、最先端の技術や技能を持った熟練労働者を育成することを今後の課題としています。

これらの課題を克服するため、マレーシアの労働力局JTMでは、更なる職業訓練制度の改革と開発が実施されています。また、JTMの指導員は、Industry 4.0の技術や技能に関係ある研究を受け、施設の設備機器などを整備していくことなどにより、指導員の技術や技能のレベルアップを図ることで、戦略的に将来的な生産革命の実現に挑戦することになると考えています。

私は、職業大で勉強した職業訓練指導員として必要とされる能力や実践的な技能、技術を生かし、今後は、マレーシアのこれからの産業に関わる多くの熟練労働者を育成することに尽力し、国の発展に寄与したいと考えています。

○Mr. Agus Susilo (アグスさん : インドネシア)

在職職業訓練指導員の能力向上の研修に参加することによって、日本の職業訓練指導員養成について理解するだけでなく、実際に日本の指導員になる人たちと一緒に授業を受けることで、指導力、コーディネート力、キャリアコンサルティング力を身につけることができました。

さらに、生産管理科目、工場見学や技能五輪全国大会見学を通して、問題発見解決力、マネジメント力、イノベーション力も勉強することができました。

これらの知識や経験をインドネシアの職業訓練に生かしたいと思います。また、職業能力開発総合大学校の先生方や一緒に勉強してきた長期養成課程の指導員先生との繋がりを大事にして、インドネシアと日本の職業訓練の協力に貢献したいと思います。